

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区豊洲3-6-8 シティタワーズ豊洲 ザ・シンボル1階
施設名	アスク豊洲保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

国旗

〈テーマの設定理由〉

来年度からバイリンガル導入予定のため、子どもたちも職員もネイティブの雰囲気を感じたり外国について知ったりすることで、日本だけでなく世界に目を向け興味を広げていけるのではないかと考えたため。
--

2 活動スケジュール

11月～3月まで実施。月1回ネイティブ講師を招致し、他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えてながら進めた。
11月：日本とアメリカの国旗を知る/食事の違いを考える
12月：アメリカ以外に世界にはどのような国があるか知る/どのような国旗なのか知る
1月：行ってみたい国はどこか考えてみる /自分の好きな国旗を描いてみる
2月：世界の国々の国旗にはどのような色や形があるか/国旗カードの国の場所はどこか
3月：ビンゴゲームを通して様々な国の国旗に触れる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

11月：国旗カード 12月：国旗カード 1月：世界地図・国旗カード・色鉛筆・ぬりえ・紙、地球儀、せかい地図絵本、にっぽん地図絵本 2月：世界の国々の国旗にはどのような色や形があるか/国旗カードの国の場所はどこか 3月：世界地図・国旗カード・ビンゴカード、地球儀、世界の図鑑、ABC絵本、国旗の絵本 机や椅子を用意して作業できる環境や体を大きく動かせる広い空間づくりなど、活動に応じた環境設定を行った。
--

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

興味関心に合わせて、オリジナル国旗づくりやビンゴゲームを取り入れながら活動を進めた。国旗づくりでは、始めは何を描こうか戸惑う姿も見られたが、講師の助言や友だちとの会話からヒントを得て、書き始めると楽しんでいった。出来上がった国旗を保育室に飾ると、自分の国旗を紹介したり、「これは〇〇が描いてあるから、〇〇が好きな●●ちゃんのだ！」など友達のものを見比べたりしながら楽しむ姿が「あった」。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

絵カードや塗り絵、ビンゴなど様々な活動を通して、国旗や世界の国々に興味を広げていく姿があった。国旗だけでなく、世界地図とも関連づけて活動を進めることが出来た。活動を進めていく中で、園内や保育室に世界地図や地球儀、国旗の絵合わせカード、英語の絵本などを設置することで子どもたちの国旗に対する関心が高まり、知っている国旗の国名を発音したり友達とクイズしたりする姿が出てきた。また、招致するネイティブ講師の出身国や名前と顔写真を世界地図の場所とリンクさせて掲示することで、「〇〇先生だ！」と親しみをもち関わり活動に参加する姿が見られた。ネイティブ講師から様々な国名やその国旗を教わる中で、ジャマイカという国の名前や発音が気に入って、繰り返し「じゃめいか！」とネイティブの発音で言ってみる姿があった。園内や保育室に世界地図や地球儀、国旗の絵合わせカード、英語の絵本などを設置することで子どもたちの関心が広がってくると、世界地図にも目を向け始める。他国の場所や、「アメリカ大きい!」「日本こんな形なの?!」など日本との形や大きさを比べて楽しむ姿が見られるようになった。様々な国旗を知っていくうちに、国旗に使われている色や形に気が付き「月がある」「バツのマークがついている」など気づきを言葉にする姿が増えた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

はじめは、ネイティブ講師との関わりに戸惑いや緊張をする子どももいたが、活動を重ねるごとに慣れてきて、楽しそうに英語を発し、やり取りをするようになっていったので良かった。全体を通して、繰り返しネイティブの発音を聞きながら活動を進められた環境から、子どもたちの発する英単語や国名がネイティブの発音になっていた。子どもたちの耳の良さや柔軟性への驚きと、子どもたちから英語に触れ合うことの重要性を改めて感じた。五感で英語に触れ合う機会を今後も大切にして、世界の国々に興味を広げていけるような活動を展開していきたい。その国の食べ物など子どもたちの身近なテーマを選び各国を紹介していくことで、関心が広がりやすくなったと感じた。日々の遊びの中で国旗を作ったり国旗絵本で知識を深めたり、自然な形で探究活動に繋がっていたので良かった。国の名前や国旗、場所だけでなく、所属する州にまで関心が広がっていったことに驚きを感じた。子どもたちのその場その場の発言や気づき、興味関心を見逃さず、展開していけるような関わりや声掛け、今後の活動の計画をしていきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区豊洲3-6-8 シティタワーズ豊洲 ザ・シンボル1階
施設名	アスク豊洲保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

音の鳴る仕組みを考えよう

〈テーマの設定理由〉

発表会に向けて楽器を演奏する子どもたちの姿を受け、このテーマの活動を通して、関心を深めたり探求したりすることで発表会以降も興味関心の広がりや活動の展開につながるのではないかと考えた。

2 活動スケジュール

11月～3月まで実施。月1回音楽講師を招致し、楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えながら進めた。

11月：音を言葉で表現してみる/オノマトペ探し

12月：身近なものの音を鳴らしてみる/どんな音がするのか、音の違いを見つける

1月：身近なもので音を鳴らしてみる/エナジーチャイムに触れる/音の高さや大きさの違いを考える

2月：様々な楽器を鳴らしてみる/身近な材料で作った楽器を鳴らしてみる

3月：自分で楽器を作ってみる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

11月：音の鳴る絵本・オノマトペをテーマにした絵本

12月：大きさや形の異なるペットボトル・割りばし・新聞紙・エナジーチャイム

1月：エナジーチャイム・子どもたちが選んだ玩具、ハンドベル、鈴

2月：太鼓・笛・創作楽器・エナジーチャイム・楽器のイラストカード 弦鳴楽器、膜鳴楽器、体鳴楽器、気鳴楽器

3月：子どもたち一人ひとりが考えた創作楽器・作るのに必要な材料（空き箱、輪ゴム、牛乳パックなど）

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

導入として様々な表情が描かれた絵カードを使い、表情を言葉で表現してみる（オノマトペ）遊びをした。子どもたちにとって表情に関するオノマトペは身近に感じられた様子で「ニコニコ」「ぷんぷん」「えーん」など多くのオノマトペが挙がった。表情のオノマトペをテーマにカルタ遊びをするとすぐに内容を理解して、楽しむ姿が見られた。保育室にある玩具を自分で選びどのような音をするのか実際に調べた。LaQの箱を振ってみた子は「シャカシャカしている」と聞こえた音を自分の考えたオノマトペで表現して伝えていた。エナジーチャイムという楽器を鳴らす体験をした。身近なものの音を探していた今までと違い、楽器に触れあうことが出来た。楽器の音の種類を仲間分けしてみる活動も行った。事前に4種類の楽器を見せて音の鳴り方をイメージできるようにした。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

オノマトペの導入から、「オノマトペ」という言葉自体に面白さを感じて使ってみたり、聞こえてくる音を言葉で表現したりする姿が増えた。雨の音は「ザーザー」風の音は「ヒューヒュー」だねなど散歩の時にも話題に上がっていた。音への関心が高まってきた姿を受けて、身近なものの音を鳴らすとどんな音をするか、手を叩いたり声を出してみたりペットボトルや割り箸を用いたりして試してみた。力の入れ方や叩き方、叩く場所などによって音の大きさや音色に違いを発見していた。身の回りのものはどんな音をするのか音探しをしてみると、叩き方や力加減を変えて様々な音を出そうとする姿が見られた。楽器の音の種類を仲間分けしてみる活動も行った。事前に4種類の楽器を見せて音の鳴り方をイメージできるようにした。用意していた様々な楽器のイラストを見て、「これ笛と一緒にないかな?」「これは震えるやつだよ」など形や楽器の鳴り方を想像し種類を考えていた。馴染みのない楽器でも見た目で法則性に気づき仲間分けをしようとする姿があった。形や音の鳴り方の知識を得たり発見したりという経験を通して、最後に楽器作りを行った。クラスで話し合い牛乳パックとペットボトルの蓋を使ったカスタネットを作った。カスタネットの音の鳴らし方や音の鳴る仕組みを理解できていて、持ち方や力加減を工夫しながら音を鳴らすことを楽しんでいた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子どもたちが実際に試して考える時間を多く作り、気づきを大切に拾い上げていくことで、講師がやっていることを見るだけではわからないことを発見でき、音の鳴るしくみについて様々な探求を行えた。全体の活動を通して、実際に試してみる前に、どうなるのか考えてから行うことで、違いを知れた時により嬉しさを感じたり、自分の予想と比べたりする姿につながっていた。「面白い」「なるほど」と子どもたち自ら気づけるように導く難しさもあったが、講師の専門性や保育者の声掛けの工夫から、子どもたちが楽しみながら探究活動に進んで取り組んでいたのがよかった。身近なものを楽器のように奏でながら、音の出る仕組みや音色や音量の違いを自ら感じ取り、楽しみながら興味関心の広がっていていることを感じた。子どもたちが考えているときは出来る限り待つ、子どもたちの言葉で気づきを表現できるようにすることで、探求活動が子どもたち主体で進められるようにできた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区豊洲3-6-8 シティタワーズ豊洲 ザ・シンボル1階
施設名	アスク豊洲保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

とぶって何だろう

〈テーマの設定理由〉

体操教室プログラムの中で、縄跳びや跳び箱など「とぶ」動きを取り入れた活動が多いことから、子どもたちにも身近で日々の生活にもつなげやすく探求、挑戦しやすいテーマだと考えたため。

2 活動スケジュール

11月～3月の期間で実施。月1回体操講師を招致して、身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしてもらったり、探究心を掻き立てるような助言をもらったりしながら取り組んだ。
また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えながら進めた。

11月：「とぶ」をテーマに絵本や図鑑からとんでいるものを探す/自分ができる「とぶ」は何か考えてみる

12月：どんな動物がどのくらいの長さでとべるのか考えてみる/好きな動物になりきってとんでみる

1月：様々なとびかたを試してみる（大きくとぶ・小さくとぶ）

2月：道具を使ってより様々なとびかたに挑戦する

3月：自分が作ったものを飛ばしてみる/なぜ飛ぶのか考える

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

11月：絵本・図鑑
12月：丸マット
1月：丸マット・跳び箱・マット
2月：跳び箱・ケンステップ・リトルコーンセット・縄跳び、縄跳びポール
3月：子どもたちが作った「飛ぶもの」

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

絵本や図鑑から「とぶもの」を探す。鳥やカエルなど動物の他に魔法の絨毯や飛行機も発見していた。
絵本や図鑑から見つけた「とぶもの」の中で子どもたちが出来そうなものを自分で選び実際にやってみる。
うさぎや人間など遠くまで跳ぶことが出来そうなものをそれぞれ予想して、飛ぶ時の姿勢をイメージして実際に体を動かす姿が見られた。また、飛べた長さを図って比べることで、跳ぶ姿勢と飛距離の違いに気づいていた。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

動物の飛び方を真似しながら飛ぶことを楽しむ子どもたちの姿を受けて、丸マットを用意して「どうしたらより遠くに（大きく）飛べるか」問いを投げかけた。すると丸マットを目印に「1まで跳ぶには」「5まで跳ぶには」と考えて飛ぼうとする姿があった。跳び箱なども用いながら、高く飛ぶ大きく飛ぶなど様々な飛び方を目標にそれぞれ繰り返し試しながら飛ぶ姿があった。
「跳び箱が低い方が小さく跳べる」「跳び箱が高い方が大きく跳べる」と気づきを発言していた。
さらにケンステップやバーなどの道具を用意して、自分たちで飛び方を考える機会も作った。同じ道具でも向きや組み合わせ方を変えることで跳び方は何通りもあることを知ると、他にはないのか友達と話し合っ探してみる姿があった。
様々な飛び方を試しながら学んだ子どもたちに「とぶものを考えて自分たちで作るには」という問いを投げる。
折り紙で紙飛行機やピョンピョンカエルを作り、実際に飛ばして楽しむ姿があった。
講師と一緒にどうして飛ぶのかについても考えながら飛ばすことに集中する姿が見られた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

日々の遊びの中で、「とぶ」という子どもたちにとって親しみのあるテーマから、探究活動を行えたことで子どもたちも興味を持って取り組んでいたのがよかった。
「とぶ」という身体を動かす活動から、自分で「とぶ」ものを作るという活動に展開していったのも新しく新鮮だった。
遊びや生活の中で「とぶ」という身近な動きから、様々な探究活動に繋がっていた。
活動や子どもの疑問に合わせた活動や、探求心を引き出すきっかけになるような声掛けをしていくことの難しさも感じたが、講師と連携を図りながらよりよい展開ができるよう進めていくことができた。